ストップ・ざ・がんの会だより

Vol. 8　2014. 2
発行：ＮＰＯ法人ストップ・ざ・がんの会　〈代〉092-762-3010
事務局：福岡市中央区天神２－１３－７福岡平和ビル３階（公財）福岡県すこやか健康事業団内

新年のあいさつ

一番寒い月、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
いつも当会の活動事業に御協力を賜り誠に有難うございます。毎日のように医療関係のニュースが目に入り、その 中の「がん」に関しても、一日過ぎる毎に患者家族関係者には希望が見つかっています。ボランティアの仲間、出会 った患者の方、治療中の方々の忍耐、笑顔に励まされ、私は背中を押されて今を生かされています。
さて、私は昨年12月、(公財)福岡県すこやか健康事業団の「平成25年度がん研究助成金審査結果報告および贈呈式」に出席させていただきました。
前記助成金制度は1964年に始まり、今年で48回目、今回を含め、1億7千万円を上回る額を若手の研究者へ助成されている事に驚きました。
事業団会長の原信之先生の「死因1位とされるがんの撲滅に向けてさらに研究に励んでいただきたい」とのご挨拶 は、「がん＝死」の時代から「がんは治る」時代は誰もが知る処で、これは年月をかけて研究者 、医療に携わる方々の並々ならぬ努力の賜物なのだと改めて思わされました。
その後、41名の応募者の中から審査会で選出された27名の受賞者へ記念品などの贈呈式が執り行われ、優秀賞5人の方々による記念講演がありました。その内容は学術的なものでしたから、私には難しかったです。
今日、医療技術が日進月歩する中で、がん研究の沢山の医療従事者の研鑽により、生命の尊厳への道は営々と続けられています。当会の基本理念は「がん撲滅・がん検診受診・早期発見早期治療」です。これからも皆様方の御 支援、御鞭撻、御協力をいただき、今年も がん検診受診啓発を続けて参りますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます 。

理事長　下田　八須子

出前講座

福重公民館

昨年10月29日西区の福重公民館で、福重校区衛生連合会のお世話で出前講座を実施しました。
地域の方々24名と当会員5名が参加して（公財）福岡県すこやか健康事業団学術研究センター保健師　池田晶子様に「がん予防講座」の講話をして頂き、併せて寸劇「がん普及促進会議」と題したものを見て頂きました。もう一つは、がん体験談を当会員の扇悦子さんから、最近胃がん手術を受けた経緯などを 内藤会員が質問形式で、例えば、「がんと言われたときどんな気持ちでしたか？」などと聞き出す方法で 約30分間行いました。参加された男性の方から、奥様が6年間がんの治療中で、ほとんど病院暮らしをされているというお話をされました。そのほか、治療費用はどのくらいかかったかなどお尋ねがありました。前述の男性は、がん細胞の増殖の速さに驚いたと言われていましたが、池田保健師の話にもあったように特に高齢者の場合はある時季から病気の経過が急速に早まるとのことでした。

衛生連合会の皆様、公民館の皆様たいへんお世話になり有難うございました。　（高嶋）

長住公民館

11月14日（木）
福岡市南区の長住公民館で出前講座を開催させていただきました。南区での出前講座を開催したいという岡村会員の努力によって開催できました。胃がんのドクターによる講演との希望で、講演を九州大学病院　放射線科研究主任　鶴丸　大介先生に演題「知ってるようで知らない胃がんの話」でお話頂きました。先生のお話は医学の堅い話の中にユーモア一溢れるお話で、一時間が短く感じました。 続いて扇悦子氏による体験談。寸劇 「お買い物編」とさせていただきましたが、参加者が50名以上と盛況にて、質問も出て良い出前講座を開催させていただいたと思っています。
来年も開催を依頼してきました。

（田中）

松島校区健康フェスタ

平成25年12月1日(日)、福岡市東区松島校区で開催された文化祭に参加させて頂きました。
当日はがん検診、ステージ発表、展示発表、友愛セール、国際交流と盛りだくさんでした。
ステージ発表では1部2部とプログラム構成で、1部はママとベビー、子ども会によるフラダンス、クラッシックバレー等、2部は私達がんの会による寸劇、ふれあいダンス等。なかでも、中国芸術の「変面」に驚かされ…息を止めて見入ってしまいました！ 会場のセレモニーでは、松島小学校校長先生をはじめ校区各種団体の方々、施設長、国・県市議会の方々のご臨席を頂きながらのプログラム進行がなされました。会場内(体育館)には、サークルの方の作品展示、硬筆練習、作品づくり、そして何より嬉しくありがたかったのは“ちゃんこともち”です。お腹も身体も幸せに充たしてもらいました。早朝から参加者一同の為にお骨折り頂いた皆様に感謝申し上げます。「多くの人とふれあいを大事にし安心安全なまちづくりを実現します。」とお話しされていましたが、校区の皆様の一体感とおもいやりの心を感じさせていただいた一日でした。
ありがとうございました。（渕上）

扇氏の胃がん体験談（質疑応答形式）

平成25年10月、11月公民館での講演

Q　がん検診は毎年受けていましたか。
A　母親が60歳で末期の胃がんで亡くなり、弟も肺がんと胃がんに罹り、胃は全摘出手術を受けました。その後、15年経っていますが元気に過ごしています。ですから、私は毎年がん検診を受けています。

Q　がん検診はどの部分を受けていますか。
A　胃がんと大腸がんは毎年、乳がんと子宮がんは2年に一回です。

Q　胃の検査はバリウムによる胃透視ですか、胃カメラですか。
A　私はくも膜下出血の後遺症で左半身が不自由なあ、体を左右に動かせないので胃透視は出来ず、寝ながらモニターが見られる胃カメラで受けています。過去2年ほど、定期的に胃の組織の一部を切り取って調べる生検を受け、良性と言われていましたが、今年がんが見つかりました。

Q　がんと言われた時どんな気持ちでしたか。
A　母も弟も胃がんでしたので、やはりと思いました。弟は胃の全摘出後15年間元気に過ごしていますので、私は特に気にしませんでした。

Q　家族はどうでしたか。
A　主人は私がくも膜下出血を患ったことがあるので、「胃がんでは死なん」と言っています。

Q　胃がんの手術を受けられた時のことについてお尋ねします。
A　今年1月15日に入院して17日に手術を受けました。医師は私の胃がんの画像と手術の流れをプリントで説明してくれました。プリントを見ながら手術を待ちました。手術は麻酔をかけ、内視鏡で行われる事が解っていましたので安心して先生に任せられました。手術後は、何ともなく、食事も重湯から3分がゆ、5分がゆ、そして普通食になりましたら、退院と言われました。入院してから5日目でした。入院中に3キロ痩せましたが、帰宅後しばらくしてすぐ元の体重に戻りました。

Q　がんの治療を終えてどんな気持ちですか。
A　手術後アルコールは飲めないと思って半年間飲みませんでしたが、体調も良くなりましたので、会合の度にお酒を飲んで楽しい気分になっています。

Q　胃がん手術の前に大腸ポリープをとられたと聞きましたが。
A　胃がん手術の前に大腸ポリープを取り除くよう言われました。ポリープは2センチくらいで良性でした。便秘症で野菜嫌いですので、大腸がんの検査は毎年受けています。

Q　退院後ピロリ菌の検査を受けられたと聞きましたが。
A　掛かりつけの病院でピロリ菌の検査を受けた結果ピロリ菌がいましたので、除菌を受けました。薬を1週間朝晩欠かさず飲みました。幸い1回で除菌できました。

Q　入院費用はどのくらいかかりましたか。
A　大腸ポリープの切除は4日間の入院と手術で5万円くらい、胃がんは手術と5日間の入院でしたが、高額医療の手続きをしましたので、8万円ぐらいでした。今回がんの早期発見で、手術も軽く入院日数も短く済み、費用も思ったより少なくてすみました。これからもがん検診は毎年受けます。

Q　ありがとうございました。

行事予定

会場　（公財）福岡県すこやか健康事業団
　　福岡平和ビル3F
時間　13:30～16:00
- 運営委員会(第1火)　3/4　4/1　5/7(水)
- 定例会(第3火)　2/18　3/18　4/15　5/20
- 平成26年度通常総会　5/20(13:30～)
- 第13回自主講演会開催　7/12(土)

御寄付のお願い

ストップ・ざ・がんの会では、がん検診の受診率向上を目指し啓発活動を行っています。活動にご理解頂ける方からの御寄付を受付中です。 1口1，000円(何口でも可) 振込先:ゆうちょ銀行振替口座・口座番号01700－4　番号125067　加入者名　特定非営利法人ストップ・ざ・がんの会　へ皆様の暖かいご支援をお願いします。

出前講座も随時受け付けています。
また、出前講座を開催させて頂ける団体様がいらっしゃいましたら是非ご紹介下さい。